

春夏秋冬



武蔵野会ニュース No. 156 平成27年1月5日

発行 社会福祉法人武蔵野会

本部 東京都八王子市台町1-19-3 TEL042(623)8509

<http://www.musashinokai.jp/>

新年のごあいさつ



旅行・三津シーパラダイス
(希望の里)

トリーク 新しい時代

アベノミクスが一応信任された形で総選挙が終わりましたが、経済政策は社会福祉法人の経営にも強い影響があります。

例えば、武蔵野会では、アベノミクスの第1の矢の金融政策に伴う円安と、第2の矢の財政政策に伴う公共事業の拡大により、現在進めている4つの施設の建て替え工事の建設費高騰の影響をものを受けています。第3の矢の成長戦略についても、規制緩和による社会福祉事業供給主体の多元化と、それに伴うイコールフッティング論等が今後さらに強まることと予想されます。

ただ、成長戦略一般に関しては、経済学者やマスコミ等が指摘しているような、思い切った意識の改革が我が国には必要な時代になっているように思います。

最近、新聞等で、「現在は、第4次産業革命ともいえるべき、自動化された工場が業種を超えてネットワーク化され、国家として立地競争力を競う時代」「技術力や経済力だけではなく、その上で発揮される個と共同体に共有された問題解決のための思考法(ソーシャルキャピタル)が重要」等、日本のこれまでのモノ作りの限界を超える発想の必要性をよく目にします。

要は、固定観念にとらわれない柔軟な発想と、単体でなく、分担し、大きな単位で知恵を出し合っていくスタイルが必要ということ、製造業と社会福祉の仕事は異なりますが、我々にも参考になるものがあります。

個々の職員の柔軟な発想をみんなで磨き、良い取り組みについては施設内、法人内と広げて共有し、実践する。地域の身近な社会資源や医療法人との連携、さらには企業、NPO法人ともイコールフッティング論を超えて協働する、などを進める必要があると考えています。

社会福祉法人武蔵野会 理事長 上野 純宏

謹賀新年

理事長 上野 純宏



皆さまには旧年中は大変お世話になりました。総選挙も終わり、今年は、国の借金が一兆円を超える中、「近い将来の大きな痛み」を避けるために「今の痛み」を分かち合う社会保障制度改革の検討が、本格的に進むことが予想されます。

社会福祉法人のあり方の議論において示された法人側への課題提起にも、的確な対応が必要です。

資金面の対応も含め、4つの施設の円滑な建て替えの推進等、武蔵野会独自の課題も多く、これらを併せ、法人一丸となって取り組んでまいりたいと存じます。

どうか今年もよろしくご支援のほど、お願い申し上げます。

ご支援に感謝申し上げます

武蔵野会後援会長・評議員

石谷 暢司



会員と協力者の皆様には日ごろ温かいご支援とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

昨年12月には皆様から託された支援金の本年度の第1回目の寄付金を武蔵

優しく前進して参りましょう。

【監事】

春日 完和



本部や施設からの情報、施設訪問で接する方々の熱意と姿勢に接して、武蔵野会が障害者福祉の実践充実に向かっていることを実感し、喜ばしく思っています。

谷口 健吉



あけまして、おめでとございます。幼少の頃、祖母が夜空を指さし「お月様で、うさぎさんがお餅ついているよ」と夢をくれた。私も子ども達にいい夢を配りたいな。

【評議員】

久保 健一郎



新年、明けましておめでとうございます。新しい年が、皆様にとっても素晴らしい年でありますよう祈念しております。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

西野 榮男



職員は福祉を支えるプロとして自己研鑽に励

野会に届けました。また、12月2日に企画会議を開催し、会員の皆様に活動内容のご理解をより深めるための方策や新会員募集の方法などの具体策を協議しました。特に施設・事業所の近隣の皆様に、武蔵野会を物心両面から支える後援会の活動内容についてのご理解とご協力の方策を検討しています。新年度には方法等を会員の皆様にお示しして、お力添えを頂き、活動を推進します。何卒、本年もよろしくご協力をお願い申し上げます。

法人役員挨拶 (順不同)

【理事】

青木 昌子



地域のご理解とご協力により、武蔵野会の組織規模は拡大し、その内容も地域貢献活動へと充実の一途を目指しています。

同時に職員皆様の温かい支援により利用者の安定した日常が保たれていることに感謝します。

渡辺 暁



高齢者が増加の一途をたどる現在、社会福祉法人に対する期待と優遇税制などへの批判が錯綜しています。

その中で武蔵野会としては利用者支援と共に具体的な地域貢献を提供することが求められています。

村山 悦正



はやぶさ2の打上成功、5年前の感動が蘇りました。生命の起源に迫る手がかりをつかんで帰還することを願うばかりです。素敵な夢を抱いて新年を迎えることができました。

廣本 肇



「生涯現役」と威勢のいい事を言ったって、今年82歳。免疫抗体が減りはじめているのは仕方ない。言い直して「生涯青春」が結構いいかなと思いはじめています。

高橋 信夫



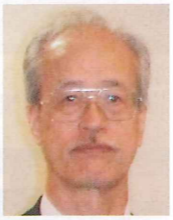
「文京総合福祉センター」4施設の建て替え等、法人の歴史の中でも、大きな動きの始まりの年です。先を見据え、社会福祉法人の使命を追求していきたいと思えます。

中島 通子



未年の「未」は伸びきっていない枝を表しているとか。武蔵野会も52年目でもなお未熟さを意識し、どんなに困難なことに対しても手を拱くことなく穏やかに

久保田 鐵也



昨年発効した障害者権利条約はこれからの地域福祉、とりわけ障害者の人権・権利擁護、行政・事業者の義務等が具現化しつつあり、家族会は今後の展開に期待します。

松岡 利明



新年明けましてあめでとございます。特別養護老人ホームの施設長の立場から法人の運営に寄与できるよう努めて参ります。今年も宜しくお願いいたします。

山田 貴美



今年「未」年、大勢で群れをなす未は、家族の安泰といつまでも平和に暮らすことを意味しているそうです。武蔵野会を利用される皆様が、安泰で平和に暮らせるよう、微力ながら尽力してまいります。

* * *

今回、掲載が間に合いませんでしたが、理事として青木秀雄様、今坂康志様、金森仁様、評議員として阿部淳一様、中村文子様には貴重なアドバイスをいただきました。今年も役員として法人を支えていただきます。

むさしの武蔵野

障害者の理解促進が「差別」の解消へ

自閉症である東田直樹さんが書いた「自閉症の僕が飛び跳ねる理由」という本が、現在二十カ国以上で翻訳されています。海外の自閉症の子をもつ親も我が子の特異な行動を理解できた、まるで我が子からのメッセージのように感じるなど、感動を呼んでいます。「どうして質問された言葉を繰り返すのですか」、「大きな声を出すのはなぜですか」などの58項目の質問に答える形で、編集されています。

彼の人を思いやる優しさが伝わってきて、私自身、読んでいてハッとさせられるところが多々ありました。多くの方に読んでいただきたいと願います。

障害者差別解消法が、28年度から施行されます。生活に最も大きく影響を与えるであろう点が、「合理的配慮の否定」を「差別」と位置づけているところです。「合理的配慮」とは、障害があるために参加できなかったり、サービスの享受がなされない場合に、機会の保障をするために行う調整や変更のことだと言われています。

具体例として、大きな声を出す障害者が病院で受診しようとしたときに、「他の人の迷惑なので出て行って」といわれたということなどが合理的配慮に欠けると考えられます。

今年度の武蔵野会セミナーは、障害者差別解消法がテーマでした。基調講演が日本福祉大学の原田正樹先生からありました。子どもたちの福祉教育で障害者の体験をさせるプログラムがあるが、障害の負の部分だけが伝わってしまっている。例えば、視覚障害者がリンゴの皮むきを見せて、毎日の料理も作っているなどの話をして貰うと、子どもたちは、自分のお母さんと同じだと感じる。さらに、行ったことがない所へは一人でいけないなどの、サポートが必要な部分も話して貰うことにより、何をすればよいかがわかってくる、この点が重要と聞きました。

私たちは、障害者施設の役目として、地域の方への障害者の理解促進の事業も実施していかねば、同法を推進する地域の方々への理解が進まず、絵に描いた餅にもなりかねません。これらを推進していくのも私たちの役目だと再認識しました。

きね川福祉作業所

施設長 大和田卓

武蔵野会セミナー

障害者差別解消法を受けて 私たちがなすべきこと

今年度の武蔵野会セミナーは、11月5日、永田町の星陵会館のホールにて「地域福祉と障害者の権利擁護」をテーマに開催しました。

基調講演として日本福祉大学長補佐の原田正樹氏が講演を行いました。「地域福祉の推進と福祉教育」という演題からは少し難しいかなと思われた方もおられたかも知れませんが、人口構成の推移から福祉意識の変遷や相交わり合う福祉教育についてたいへん分かり易い資料を交えてのお話でした。

後半は「地域福祉の視点から、障害者権利条約のもと制定された障害者差別解消法等を受けて私たちがなすべきことを考える」というテーマで、衆議院議員高木美智代氏と白梅学園大学子ども学部教授堀江まゆみ氏をお迎えし、原田



それぞれの立場からの活動等を分かりやすく話された

氏を交え鼎談が行われました。

「障害者差別解消法」の成立に際し法案策定を主導され、超党派の議員の方々と尽力された高木氏のお話、そして障害者の権利擁護のために最先端で活動されている堀江氏のお話などの2時間は「何をなすべきか」を400名の参加者ひとり1人に問う大変貴重な機会となりました。

開設30周年記念式 みのり祭開催

練馬福祉園

すっかりとした秋晴れとなった11月25日、練馬福祉園では「開設30周年記念式」と「みのり祭」を開催しました。1984年に東京都からの委託を受けて、都内で初



30年を振り返り、新たな気持ちで次のステージへ

めの民間社会福祉法人が管理運営を行う、知的障害者入所施設として開設しました。以来30年多くの方々に支えられながらこの日を迎えることができました。

記念式は園内のふれあいホールで利用者、保護者、ボランティア、法人関係者等、たくさんの方々に参列いただき、温かな雰囲気が進みました。

式終了後は、東京消防庁音楽隊による華やかな演奏でみのり祭がスタートしました。みのり祭は地域にすっかり定着した行事で、今年も過去最高の830人の来場者を迎え、地域の方々による多数の模擬店、子ども向けの大型エア遊具、毎年恒例になっているよさこい踊りやサンパと、充実した内容で大盛況となりました。

伊豆大島 C級グルメ選手権で優勝 第2大島恵の園

11月23日、伊豆大島で第3回C級グルメ選手権が2年ぶりに開催され、大変うれしいことに、第2大島恵の園が優勝の栄誉を受けました。昨年は台風災害のため急きょ中止となりましたが、今年は晴天に恵まれ、元町の会場には観光客など島内外から600人が集まり賑やかなイベントとなりました。

C級とは「チャレンジ」「カントリ」「コミュニケーション」の3つのCに、災害からの復興の意味を込めて「チェンジ」が新しいテーマとして加わりました。大島を元気づけながら島独自の食を皆で楽しむイベントです。

私たちは国内産鶏肉の串焼きに、利用者が日々の活動で栽培・収穫・加工した島唐辛子を練り込んだ特製味噌だれを塗り、再度あぶって香ばしいところを召し上がっていた「辛々(からから)どり」を447食販売。10店舗の中で見事1位を獲得しました。本選手権への参加は、障害の重



「辛々どり2本150円!」と利用者、職員の元気な声

い利用者の方々の日頃の活動の成果を活かしながら、社会との関わりを拡げるきっかけにしたい、と支援員が企画したもので、併せて伊豆大島の復興と活性化に寄与したいという思いもありました。

会場には利用者・職員他の日頃から恵の園を応援、協力してくださっている方々も多数来訪され、とても良い交流の場となりました。

支援実践報告の 優秀作

2013年度の支援実践は24施設24編の報告があり、いずれも法人理念に即した理念性の高い実践ばかりで、支援に当たった職員の熱意と様々な工夫、学習が窺えます。特に秀でた支援実践報告は、下記の通りです。



<表彰式>職員間、他職種との連携が利用者サービスの質の向上に繋がる

【最優秀賞】「重症心身障害の利用者へのコミュニケーション支援について」

練馬区立大泉町福祉園

【優秀賞】Aさんをリサーチして事業スキームを構築する～「身の丈」を伸ばして組織開発を推進～

八王子生活実習所

【優秀賞】ニーズに沿った日中活動提供と、外出機会の確保を通じて

第2大島恵の園

【優秀賞】就労移行支援の取り組み

世田谷区立世田谷福祉作業所

【優秀賞】手術不可能と言われた利用者の支援～笑顔を引き出す支援～

西水元あやめ園

施設あれや これや

練馬区立北町福祉作業所

施設の近くに軽費老人ホームができ、行事等を通しての交流ができています。そして、今年には正面玄関の前に保育園が開設します。

三施設、相互に協力し合いたいと思います。

千代田区立障害者福祉センター

えみふるは五階建ての施設です。これまで、利用者の皆様からのご意見をうかがう「意見箱」は三階の一角所でしたが、二・三・五階の三カ所に増やしました。一角所については車イス用に低い位置に設置し、多くの皆様のご意見を思いついた所で投函できるようにしました。

八王子生活実習所

正門脇の掲示板を改造し、作品を展示する「青空ギャラリー・KADO子」を設けました。最近では作品の前で足を止め、お声をかけてくれる方が増えました。今では小さなギャラリーは利用者や地域を繋ぐ架け橋となっています。

さね川福祉作業所

就労支援事業は、今まで受託作業のみを行っていましたが、現在、次年度の実施を目指して、自主生産事業の内容を検討しています。

経営コンサルタンの協力を得て製造方法と販売方法の両方から知恵を絞っているところです。

世田谷福祉作業所

10月13日、世田谷公園で開催された「世田谷パン祭り」に初出店しました。近隣商店会から声をかけていただき、オリジナルマフィンを販売しました。台風の影響による心配も忘れるくらい熱気に包まれた一日でした。

さくら学園

本格的な冬の到来を前に、雪かきの道具を揃えました。昨年は品切れとなり購入できなかった雪かきスコップの他に、軽トラックの前に取り付ける除雪板を用意しました。大雪が降らないことを祈りながら備えは欠かせません。

練馬区立生活支援センターすてつが

昨年、三回目となる演劇発表会を11月23日に光が丘区民センターホールで上演しました。タイトルは「ヒーローズ」、演劇ワークショップでプロの劇団の指導を夏から受けてきました。大盛況のうちに幕を閉じました。

小平福祉園

西東京でのお正月も2度目となりました。いよいよ今年も小平の本施設が10月に完成予定です。このためこれから施設内では建て替えプロジェクトを中心に、職員全員で小平に戻るための引越しの準備が始まります。

お知らせコーナー

1月

- 5日 成人を祝う会 (北町福祉作業所)
- 9日 成人式 (駒沢生活実習所)
- 新成人を祝う会・新年会 (九品仏生活実習所)
- 14日 法人運営会議
- 15日 成人を祝う会 (きね川福祉作業所)
- 成人式・新年会 (烏山福祉作業所)
- 18日 大島恵の園、第2大島恵の園 家族会新年会
- 20～25日 障害者文化展 (八王子市身障センター)
- 22～24日 KOMA展・作品展 (駒沢生活実習所)
- 25日 退園生会 (武蔵野児童学園)
- 28日 第262回理事会・第7回評議員会
- 31日 27年度新人採用試験

2月

- 4日 法人運営会議
- 11日 新春の集い (えみふる)
- 15日 カメラマラソン参加 (大島両施設)
- 18日 施設長研修・施設長会議
- 21日 葛飾地区実践事例報告会
- 27日 八王子地区支援実践報告会

3月

- 6日 春の集い (駒沢生活実習所)
- 11日 法人運営会議
- 14～15日 文京総合福祉センター 内覧会
- 15日 壮行会 (武蔵野児童学園)
- 18日 第263回理事会・第8回評議員会
- 20日 第35回卒園式 (すぎな愛育園)
- 桜の集い (九品仏生活実習所)
- 23日 きらきら卒園式 (すぎな愛育園)
- 25～27日 法人新任職員研修・辞令交付式

リハビリ用 訓練台の寄贈

第2大島恵の園

当施設では利用者の平均年齢が46歳を超え、車イスを利用する方も1割を超えており、身体機能の維持のためにリハビリが求められています。

このたび東京善意銀行様より訓練台をご贈いただきました。大島医療センターより理学療法士



(PT)の先生が来園して実施する機能訓練が行いやすくなり感謝しています。



リハビリ用の連結プラットフォーム

ショーケース

自主生産品紹介

世田谷区立
世田谷福祉作業所
世田谷区下馬 2-31-34-101
TEL 03-3431-0141



「ボヌール」
「はんどふる」
は、世田谷福祉作業所の製菓・紙すきブランドです。

ボヌールの焼き菓子

ワインやビールとの相性が抜群の「おつまみクッキー」。子どものおやつにぴったりなオニオンチーズ、ドライトマトとバジルを使用したバジルトマト、黒胡椒のパンチが効いたベーコンペッパーの3種類です。



おつまみクッキー
各種4枚入り 200円

はんどふるの手すき紙

デザイン学校の学生との共同開発による新商品、パルプ製ピアス「紙花」を紹介いたします。形は丸形、長方形、扇型の3種類があり、水濡れやヨレの耐久性を高める加工をしています。思いつきり個性をアピールしたい人にぴったりのアクセサリです。



紙花
各種1組(2個)入り 2,000円

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する24施設と6つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931
東京都八王子市台町 1-19-3
電話・FAX 042-626-9772